

1. 経緯

○ 近年、ミツバチの不調は、農薬やダニ、病気などにより引き起こされると推測される一方、多くの研究者は、開発による多様な植物が連続的に開花する土地の減少、つまりミツバチの体力を支える餌資源の不足を指摘。

○ そのため、農地周辺に花畑を整備することにより、ミツバチの餌資源（蜜源・花粉源）を創成し、その生育及び生産の促進が必要であることから、玉川大学ミツバチ科学研究センター、養蜂家、雪印種苗（株）、シンジェンタジャパン（株）等で構成される「耕作放棄地のお花畑化」プロジェクト推進協議会を設立し、日本の農業における課題となっている耕作放棄地をお花畑化することで、養蜂及び農業の活性化を目指して事業を展開。

〈耕作放棄地解消前の状態（平成27年度取組）〉



2. 事業概要

取組主体	「耕作放棄地のお花畑化」プロジェクト推進協議会	地区名	甲府市相川地区
再生面積	約2.4ha（令和元年度実績）	取組年次	平成27年度～
作付作物	クローバー、ハゼリソウ、ヒマワリ	販路	大学、イベント等（蜂蜜）、 県内の園芸農家（花粉交配用ミツバチ）

3. 取組内容及び効果

甲府市農地銀行システムによる農地の貸借や所有者移転等の調整を活用し、耕作放棄地の解消・発生防止に取り組むとともに、ミツバチの餌資源となる蜜源を整備。

○ 資源の創成

農地周辺の耕作放棄地に「お花畑」を作ることにより、ミツバチ及び野生ハナバチ類の餌資源（蜜源・花粉源）となる蜜源を整備し、蜂蜜の生産と共に生物多様性の促進と生態系の保全に貢献。

○ 耕作放棄地の再生

原野化を防ぎ、農地としての質を維持し、同時に景観美化に貢献。

○ 農業への貢献

蜜源植物の生育拡大により、交配用のミツバチの生産・出荷を促進し、野生ハナバチ類による生態系サービスの増強も合わせて地域の農業生産に貢献。

○ 農薬被害の回避

ミツバチや野生のハナバチ類をお花畑に誘因することにより、また良質の栄養資源となることで、農薬によるミツバチ等の被害の軽減に貢献。



活用した
支援策

—